

情報文化推薦書

2022年
11月20日
発行者 矢木信男

書名 「テクノロジーが予測する未来」伊藤穰一著
SB新書

発行日 2022/6/15

1 推薦理由—Web 3の具体的な社会はどのように変わるかを取り上げた内容である。特に、企業はどのような変化をもたらすのかを実例をあげて紹介している。わかりやすく図解もあり、Web 3の具体像が鮮明になるであろう。

2 キーセンテンス

(1) **Web 1. 0, Web 2. 0, Web 3. 0の違いは何か?** Web 1. 0は、グローバルに「read=読む」ことが可能になり、Web 2. 0はグローバルに「write=書く」ことが可能になり、Web 3. 0ではグローバルに「join=参加する」ことが可能になったことである。これは、Web 1. 0, Web 2. 0, Web 3. 0という流れのなかで、できることが「変化した」のではなく、「増えた」ということである。

(2) **Web 3. 0が Web 1. 0, Web 2. 0と決定的に違うのは何か?** 一言で言えば、「分散的=非中央集権的」ということにつける。金融システムや組織ガバナンスなど、あらゆる層で分散化（非中央集権化）が起こっているのが Web 3. 0のすごいところだ。これは「1つの場にユーザーを囲い込んでいるプラットフォーム」が力を失いつつあるということだ。

(3) **インターネットを大きく「プロトコルレイヤー」と「アプリケーションレイヤー」に分けて考**

えると、Web 3になり、Web 1. 0と Web 2. 0では、ど

こが2つのレイヤーで異なるのか? プロトコルとは、コ

ンピューター同士が通信を行う際の手順を仕組み化したもの、いわばインターネットのインフラである。それを狙っ

ている層がプロトコルレイヤーで、対するアпликаシ

ョンレイヤーとは、こうしたインターネットの仕組みを使っ

て、人々に様々なサービスを提供する層である。水道やガ

スという社会インフラの上に人々の生活があるように、プ

ロトコルレイヤーという技術インフラの上に、人々が日常

的に使う Google や Facebook といったアпликаシ

ョンレイヤーがある。Web 1. 0, Web 2. 0は、アпликаシ

ョンレイヤーにお金が集まる時代であ

った。主要な企業が「GAFA」(Google, Amazon, Facebook など)が入っている一方、

プロトコルレイヤーにいる企業はそもそもない。ところが、Web 3. 0では、この「薄いプロ

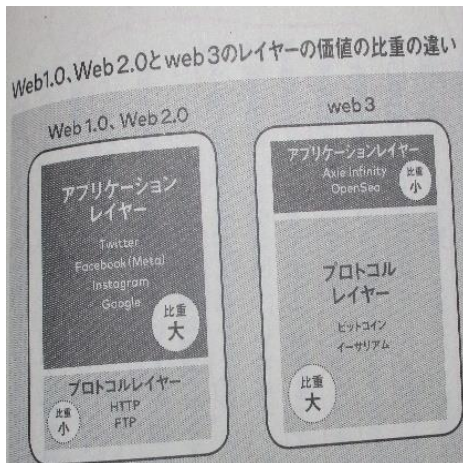
トコルレイヤーの上に分厚いアпликаシ

ョンレイヤーが乗っかっている」という構図が逆転し

ている。

(4) **Web 3の重要なインフラは「ブロックチェーン」という技術だ。ブロックチェーンとは?** 簡

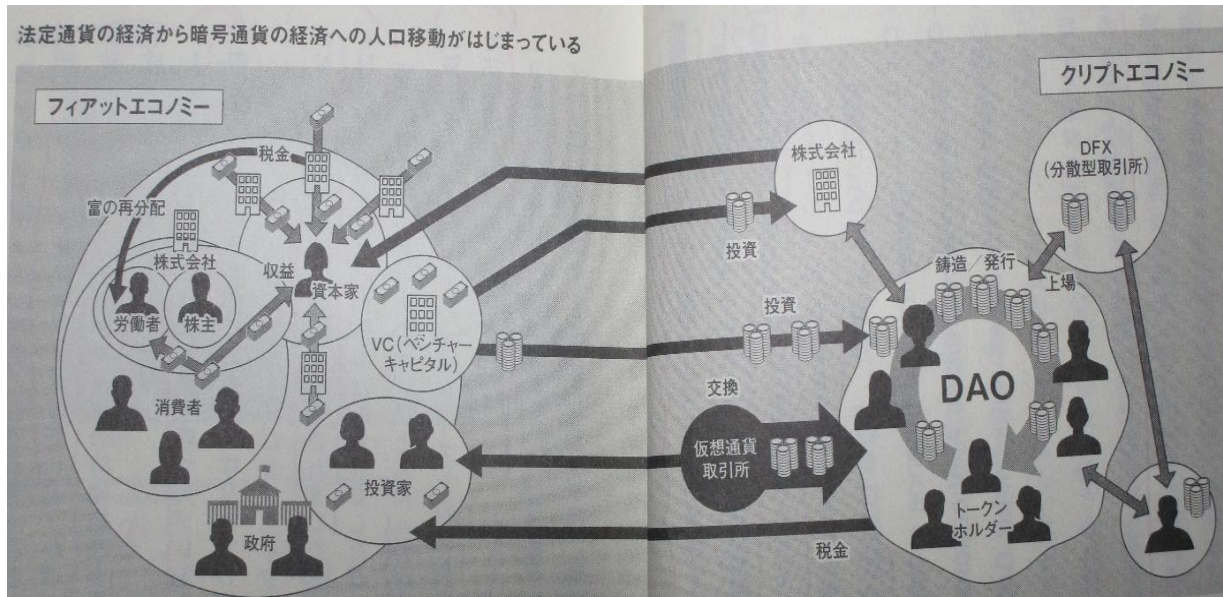
単に言えば、「暗号技術を使って決済（支払い）などの取引履歴（トランザクション）を1本



の鎖のようにつなげて記録する（その記録は誰もが閲覧可能）という技術だ。 Web 3 の プロトコルには、「イーサリアム (Ethereum)」 などがある。その上に乗っかっている アプリケーションレイヤーに、例えば NFT ゲームの「Axie Infinity (アクシー・インフィニティ)」や、NFT マーケットプレスの「Opensea (オープンシー)」 があるという構図だ。Web 1. 0 や Web 2. 0 の時代とは逆に、アプリケーションよりもプロトコルレイヤーのほうに多くのお金が集まっているというのが、Web 3 の特徴である。(写真 2 4 p)

- (5) では、プロトコルレイヤーの方が分厚く、アプリケーションレイヤーのほうが薄くなり、プラットフォームの垣根を軽々と越えられるようになったことは、何を意味しているのか？ それは、プラットフォームのユーザーを囲い込む力が弱くなっていく可能性があるということだ。 1つの場を提供し、そこでユーザーを呼び込むという Web 1. 0、Web 2. 0 のプラットフォームは、中央集権的であった。その弱体化をもたらした Web 3 は、プラットフォームとユーザーの関係性が「非中央集権化」であることを意味する。 Web 3 によって私たちは、プラットフォームの囲い込みから解放される、 といっている。
- (6) Web 3 のメリットとデメリットとは何か？ メリットは、①「よりよい技術による、より安定的かつ効率的な経済と社会の実現」、②「国家から独立して、やりたいことをする自由」、③「抑圧的なヒエラルキーや硬直化した官僚主義のないガバナンス」、④「より自由でフェアな経済、社会への進化」である。デメリットとしては、①貨幣ではない「トークン」が流通する新しい経済圏が国家にとってリスクとなる。②環境負荷が高い、③社会の不平等を増大させる、④セキュリティやスパムフィルター（迷惑メールなど）の技術が発展途上、⑤現時点では「自己責任」の比重が大きい。
- (7) どんなリスクがあるか？ 考えられるのは、ハッキングにより巨額の資金が不当に引き出されるなどのサイバー犯罪の危険性である。たとえば、「Axie Infinity」を支えるブロックチェーンのインフラがハッキングされ、イーサリアム内で使用される仮想通貨・イーサ (ETH) とドルの合計約 6 億 2 0 0 0 万ドル相当が盗まれるという事件が起きた。
- (8) Web 3 では、「クリプトエコノミー」という新しい経済圏が形成されている。クリプトエコノミーとは何か？ クリプトとは暗号資産（仮想通貨やトークン）のことであり、この経済圏では、円やドルといった法定通貨（フィアット）ではない暗号資産（クリプト）が流通している。近年、話題の NFT も、クリプトエコノミーで流通するトークンの一種である。また、独自の金融サービスとして、暗号資産をプールしておく自律的に運用される「Defi (ディーファイ)」や、独自のガバナンス形態として、トークンのやりとりを介入してプロジェクトやアプリケーション (DApps ダップス) を走らせる無数の「DAO」がある。
- (9) 「DAO」とは何か？ DAO とは、「Decentralized Autonomous Organization＝分散型自律組織」である。この形態の組織では、「経営者→従業員」といった上意下達ではなく、何事もメンバー全員参加のもとで直接民主主義的に決められる。会社組織に取って代わるだけでなく、地方行政、さらには国の行政でも、このまったく新しい DAO 的ガバナンスにとられる日がくるかもしれない。上記の DeFi とは「Decentralized Finance＝分散型金融」、DApps と

は「Decentralized Applications=分散型アプリケーション」である。これらの3つに共通するコンセプトは Decentralized、つまり分散型（非中央集権化）である。



(10) **クリプトエコノミーに対して法定通貨の世界を何というか？** 「フィアットエコノミー」と呼ぶ。そこでは経済や政治は国による管理とトップダウンの決定、企業運営は経営者による管理とトップダウンの決定と、あらゆることが中央集権的である。上図でわかるだろう。

(11) **Web 3 とは、「トークン」が行き交う世界であるが、トークンとは何か？** トークンは、



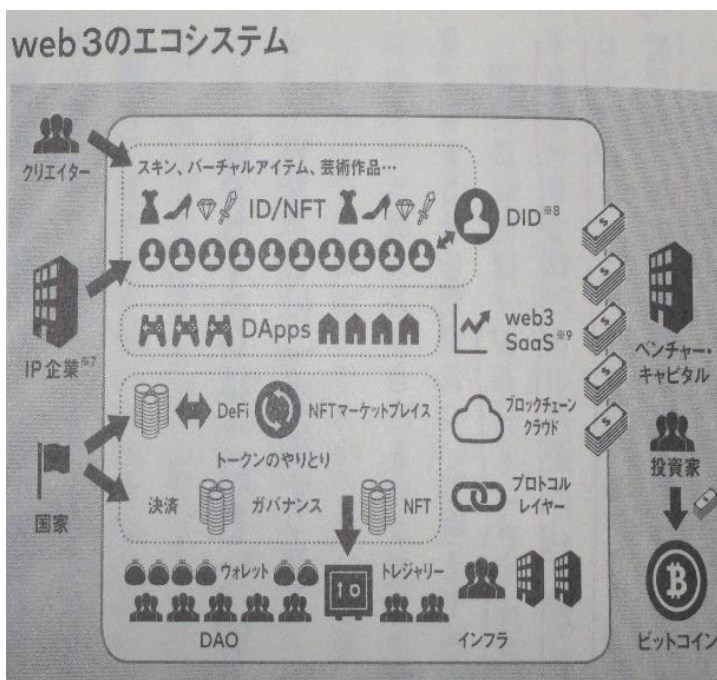
Web 3 のエコシステムを理解するうえで欠かせない概念である。トークンは、ファンジブルトークン (代替/交換可能なトークン) とノン・ファンジブルトークン (代替/交換不可能なトークン) に分けられ、ファンジブルトークンには、通貨的なトークンと証券的なトークンがある。ファンジブルトークンのうち通貨的なトークンには、「ステーブルコイン」や「ペイメントトークン (またはユーティリティトークン)」と呼ばれるものがある。

(12) **「ステーブルコイン」や「ペイメントトークン」とは？** ビットコインやイーサは価格変動が大きく、「お金」として使うには勝手が悪いものである。そこで、ドルなどの法定通貨に価格を固定することで、仮想通貨の価格が安定するよう設計されたのがス

テーブルコインである。「ペイメントトークン」は、文字通り決済に使われるトークンで、これらは、フィアットエコノミーでいうところの「お金」と同等の機能を持つものである。

(13) ファンジブルトークンでも証券的なトークンとして「ガバナンストークン」がある。ガバナンストークンとは？ ガバナンストークンとは、自分が参加している DAO の投票権になったり、利益を還元する権利になったりするものである。これは議決権や株主配当の機能に似ており、フィアットエコノミーでいうところの「株」のようなものだ。プロジェクトが成長し DAO の価値が上がれば自分が持っているトークンの価値も上がり、株のように売却すればキャピタルゲイン（株式や債券など保有している資産を売却することにより得られる売却差益）を得ることができる。まさにガバナンストークンは証券的なトークンといえる。

(14) 一方、ノン・ファンジブルトークン、すなわち NFT とは何か？ アートやゲームのアイテム、トレーディングカードのような収集性のあるグッズ、デジタルファッション、さらにはバーチャルな土地など「代替不可能な価値」を表すトークンである。驚くような値段がついたデジタルアートばかりが注目されているが、本質的には、NFT とはクリプトエコノミーのなかで流通、あるいは保有されている「価値」であるというのが正確な理解である。Web 3 は、これらの3種類のトークンが行き交う世界である。



(15) ビットコインとイーサリアムの違いはどこか？ 簡単に言えば、ビットコインは通貨、イーサリアムは通貨であると同時にインフラ（基盤）でもある、ということだ。ビットコインは、トラストレスで非中央集権的であるために、いままでは主に「通貨」としてしか機能していない。イーサリアムと比べて、プログラム言語を使って運用・管理しにくいために、開発がむずかしかった。一方、イーサリアムは、ビットコインのように通貨としての機能にみずからを閉じ込めなかった。イーサリアムはさまざまなアプリケーションの開発ができるようにした。

DAO、NFT、DeFi・・・Web 3 を構成する要素は、すべてイーサリアムというインフラ上で可能になったものである。いわば、ブロックチェーンを技術転用することで、イーサリアムは、コミュニティベースで成立するクリプトエコノミーを生成し、「分散」をキーワードとする Web 3 の多様な経済社会を可能にしている。

(16) では、来たる Web 3 時代に、結局のところ、世界はどうなっていくのだろうか？ ガバナンスはトップダウン型からボトムアップ型へ、消費は、大企業主導の大量生産・大量消費型

から、より細分化されたリレーション型へ、という具合に、社会のあらゆるところで「Decentralized=分散化（非中央集権化）」がおこっていく可能性が高いであろう。そのなかで、Web 3 で生まれたさまざまな仕組みが、環境問題をはじめとする社会問題の是正に役立てられていくことも、大いに考えられる。

- (17) **Web 3 では、個人の働き方は「組織型」ではなく「プロジェクト型」になっていく。どういうことか？** その主体は「DAO」である。 DAO は、会社組織ではなく、プロジェクトごとに立ち上げられるので、個人は、自分が興味を持ち、貢献できそうな DAO を見つけるごとに「参加する」という形で働いていくことになる。 作品ごとに制作チームが立ち上げられて、スタッフや俳優を集めて進められる映画制作のような感じである。 DAO で働くようになれば、もはや「本業・副業」という概念すらなくなるであろう。
- (18) **では、「自分でプロジェクトを立ち上げたい」という場合はどうだろうか？** 現時点で DAO は、法的な立ち位置が曖昧である。狭義でいえば、トークンを発行して資金調達をするものであるが、実は、日本ではトークンを発行・上場するだけで重い税を課せられる。 したがって、こうした理由から 日本で DAO を立ち上げるのは、現段階では事実上、かなり難しいといわざるをえない。
- (19) **では、無理なのだろうか？** そんなことはない。プロジェクトを立ち上げ、仲間を募って運営していくことなら、暗号資産取引所で流通するトークンとは異なる換金性のない独自トークンだけで可能である。
- (20) **具体的な例はあるか？** 著者は、「Henkaku」（変革）というコミュニティを主宰している、そこでは独自のトークン「\$ HENKAKU」を発行している。ただ、仲間が集まって何かを一緒にやろうとしている（例えば学園祭のように）のではなく、トークンのやりとりを通じて何かを生み出すように機能するコミュニティであることが、DAO の一番の鍵である。その意味では、あるアーティストの NFT アートを持っている人たちのコミュニティも一種の DAO と呼んでいいだろう。
- (21) **では、一般の会社設立と DAO の設立とは、どこが違うのか？** 会社をつくるには、弁護士を雇い、定款を書き、自己資本金を準備し、銀行から資金を調達するなど、時間も手間もお金もかかる。このような骨の折れる手続きを経て、会社設立となったら、今後は雇用、求人広告を出し、一人ずつ面接をすれば、また、時間、手間、お金がかかる。しかし、DAO ならば、すべてブロックチェーン上で行われるため、膨大な書類仕事に追われることもない。独自トークンの発行なら 5 分程度、Discord のサーバーを立ち上げるなら 10 分程度もあれば済んでしまう。 感覚的には「Facebook グループをつくる」くらいの手軽さである。ただし、これほど手軽につくれるからといって、DAO は決して信頼性に欠けるわけではない。
- (22) **なぜ、信頼性が高いのか？** 企業の事業内容や信頼性をはかるには、定款や財務諸表を読み込む必要があるが、DAO が発行するトークンは、すべてブロックチェーンに記録される。 ブロックチェーンならば、誰もが簡単に参照できて、しかも事実上、改ざんされることはない。 そういう意味では、通常の企業より取引や履歴の透明性が高く、信頼性も担保されているとい

える。企業のコンプライアンスの大半が「透明性」に関するものだと思うが、ブロックチェーンには、その点をクリアするための機能が揃っている。また、いったん立ち上げてしまえば、そのなかでのプロジェクト管理が非常に効率的になる。これも DAO の魅力的なところだ。

- (23) **「Henkaku」での管理と報酬は？** 「Henkaku」という DAO では色んな人のタスクを To Do リストで管理してコンプリートされると、その人への報酬が \$ HENKAKU で支払われるようになっている。 このシステムを立ち上げるのにかけた時間はほんの僅かであった。
- (24) **DAO では、「株式、経営者、従業員の構図が崩れる」のである。どういうことか？** DAO には「全体の方針や決める人たちと、それに従う人たち」という分業体制がない。DAO をつくった人たちも、その主旨に賛同して集まった人たちも権利的に同等である。 株式会社では、どうしても利益は株主や経営者に集中する。社員、契約社員、アルバイトには労働の対価を受け取るのみだが、DAO では、これらの構図が存在しない。プロジェクトに貢献する参加者にはトークンが配布される。しかもクリプトエコノミーではトークンの流動性（換金性）が発生するタイミングが早く、1年も待たずにトークンを売却してキャピタルゲインを得られることも珍しくない。 これは社員も契約社員もアルバイトもユーザーも区別なくプロジェクトに貢献することができ、成長することで、キャピタルゲインが得られる「自社株」を、受け取れるようなものである。
- (25) **企業では、株主の決議権が行使されるのは年に1度の株主総会だけであるが、DAO では、どのようになるのか？** DAO では、随時、メンバーから「こんなことをしたい。そのためには〇〇が必要で、かかる期間は△△くらいだと思う。成功したら〇〇トークンがほしい。どうだろうか」などと提議され、メンバーの間で投票が行われる。
- (26) **DAO でも、有望な DAO は早々に目をつけたベンチャー・キャピタルが、そのトークンを大量に保有する、といったケースが起こる可能性はある。そのような場合に、問題は起きないか？** 「投資家優位という構造はない」「労働者は存在しない（主体的に働く個人がいるだけ）」というのが、DAO のそもそものアイデンティティの1つであることから、ある種の自浄作用が働くはずである。 また、誰がどれだけのトークンを所有しているかはブロックチェーンで丸見えなので、検証も容易である。長らく資本主義社会の課題であった構造的不平等は、テクノロジーの進化で、いま、一気に解決に向かっているところかもしれない。
- (27) **DAO に参加するというのは、どのような感覚なのだろうか？** それは「この魅力的なプロジェクトで、何か自分に手伝えることはないだろうか」と役割を探しに行くような感じである。 自分から「これ、やります」と手を挙げられるようになっているので、嫌いなことや苦手なことを割り振られることはない。タスク単位で働いてトークンを受け取ることもできる。DAO では、多様な働き方が可能であり、自分が望むかたちで、自分が望む時間だけ参加できる。自分の仕事や働き方は、組織に決められるのではなく、自分で決めるということである。
- (28) **会社では、退職・転職をするだけでもひと苦勞であるが、DAO はどうなのか？** 信じられないくらい身軽である。DAO は個人を縛り付けるものではないため、おもしろそうな DAO へのコミットメントはより強く、ちょっと関心がある程度の DAO へのコミットメントはより

弱く、という差が出るだけである。もし、興味を失ったら、その DAO から退出すればいいだけのこと。「退職希望日の〇ヶ月前に申し出よ」といったルールはない。

- (29) **DAO の報酬、配当、権利は「トークン」が司る、とはどういうことか？** DAO に参加することで得られる対価には、仕事の報酬、利益配分などがある。報酬は、その DAO が発行するトークンやステーブルコイン・イーサリアムなどの暗号資産で支払われる。なお、DAO の利益は、一般的にはガバナンストークンの保有量に応じて分散される。ガバナンストークンは、スタートアップ企業のストックオプション（新株予約権）と比較するとわかりやすい。
- (30) **ストックオプションとは？** 企業の従業員が、自社の新株を特定の値段で購入できる権利である。自分たちが頑張って成果を出し、自社の企業価値が上がったら、特定価値で得た自社株を売却することで大きなキャピタルゲインを得ることができる。だから自然と「よし、頑張るこの会社を成功させよう」という動機づけになる。
- (31) **DAO のガバナンストークンが報酬として配布されることは？** いってみれば、スタートアップ企業のストックオプションを受け取るようなものである。自分が自社の成長に貢献すればするほど自社の株価が上がるように、自分の貢献により DAO が成長すると、保有しているガバナンストークンの価値も上がる。上がったところで売却すれば、大きなキャピタルゲインを得られる。保有すれば、利益が分配されることでインカムゲイン（資産を保有していることで得られる利益）を得られる。
- (32) **「しかも、DAO はこれがスピーディに起こりやすいというのも特徴」とあるが、これはどういうことか？** ストックオプションでは自社が証券取引所に上場（IPO）しないことには、権利を行使できず、それには数年～数十年単位の時間がかかる。一方、DAO の場合は、トークンを売り買いできるタイミングが、プロジェクトがかたちになる前の段階に訪れてしまうことが多いのである。
- (33) **DAO の課題は？** それはまだ法的立場が明確ではないことだ。「分散型自律組織」というとおり、DAO には確たる主体がない。もちろん最初にプロジェクトを立ち上げたメンバーはいるが、「創業者」ではなく、大勢のトークンホルダーの一人にすぎない。現時点で最も先進的な例としてはアメリカ・ワイオミング州で DAO を法人として認める「DAO 法」が制定された。一方、日本ではようやく議論が始まろうか、という段階である。法的な整備が進めば、DAO による仕事や働き方の劇的な変化は、より大きな社会的ムーブメントになっていくだろう。
- (34) **本質的には電子データでしかないトークンにどのような役割を見だせるのか、を具体的にとらえれば、どんなことか？** コミュニティ「Henkaku」で、\$ HENKAKU トークンを出した。 \$ HENKAKU トークンを用いて、僕らのコミュニティでどのようなエコシステムを構築できるか。たとえば、\$ HENKAKU を持っているコミュニティメンバーが、それにより特別なベネフィット（利益）を感じられるようにしたらどうかと、いろいろと実験のアイデアをねっている。トークノミクスが何もないことを1つの特徴としたうえで、「お金に換算できないからこそ価値のあるトークン」を構築するというのもアイデアの1つではない、と考えている。

- (35) **では、「お金の換算できないからこそ価値のあるトークン」とは、具体的にどのようなものか？** 例えば、500\$ HENKAKU を支払うと参加できるイベントである「HENKAKU BAR」を開いた。このイベントは、\$ HENKAKU をもっていないと入れなくなっており、お金を持っていたとしても入れない。 \$ HENKAKU はコミュニティへの貢献に対して付与されるものであるから、「コミュニティに貢献してくれた人」だけが参加できる特別のイベントというわけである。今後も、普段オンラインでやり取りしているメンバーを結びつけるリアルイベントは定期的で開催していきたいし、ほかに \$ HENKAKU オンリーの NFT マーケットを開くアイデアなどもある。このように何か「特別なクラブのメンバーシップ」のように機能させることで、金銭的な価値の媒体ではない「ソーシャルトークン」として、\$ HENKAKU を成長させていければと思っている。
- (36) **NFT とは何か？** 現時点で明確に答えられるのは、文字通り「ノン・ファンジブル、つまり代替不可能なトークンである」ということくらいである。要するに、NFT は、まだ概念が定まっていないほど新しいテクノロジーなのである。 今後は、ウォレットを持つ人が増えるにしたがって、「どんなものを NFT 化したら人は欲しがるか」というアイデアも多様になり、さまざまな NFT が誕生していくだろう。いままでは見過ごされていた価値と NFT をいかに結び付けていくかは、人々の目的意識やアイデアにかかっている。
- (37) **著者の頭に浮かんでいるアイデアとしてどんなことがあるか？** 「映画制作のスタッフジャパンのようにコミュニティメンバーにだけ付与される、転売不可なデジタルファッション。 これを自分のアバター（メタバース内の自分の分身）が身につければ、そのコミュニティのメンバーであることを示すことが出来る。」「コミュニティに貢献した人に付与される、転売不可の「ありがとう NFT」。 この NFT を持っているコミュニティのイベントに参加できたり、コミュニティのデジタルプロダクトなどが贈られてきたりする。」「レストランで『よい振る舞い』をしたお客に付与される、転売不可の『上客 NFT』。 この NFT を持っている、『一見さんお断り』のレストランでも予約できる」などは、すぐにでもつくれるはずだ。「転売不可」とは「お金の換算できない価値」を資産として扱うということである。 幅広いジャンルに応用できる。
- (38) **Web 3 で形成されるクリプトエコノミーは、社会的ムーブメントとして存在感を増している。その現れの一つが、「BANKLESS（銀行なし）」を掲げるアメリカの若者たちである。どんな内容か？** 10代半ばの彼ら・彼女らは、クリプトエコノミーで稼いだ仮想通貨を仮想通貨 ATM で現金に替えて、ランチを買ったりしている。稼ぎはクリプトエコノミーで得ており、フィアットエコノミーでの経済活動は消費だけだ。したがって、現金を預けておく銀行は必要ない、それが「BANKLESS」である—というムーブメントである。このようにクリプトエコノミーでの稼ぎだけで生活している人々が現に誕生している。中には NFT でたくさんクリプトを稼いでいて、「私はもう一生、銀行口座を開くつもりはない」と豪語している若者もいる。著者も NFT アーティストとご飯を食べに行ったときなど、割り勘の分を仮想通貨のイーサにして相手のウォレットに送ったりしている。日本には、まだあまり仮想通貨 ATM がないので仮

想通貨の使い勝手は悪いが、おそらく、状況が変化するのは時間の問題だと思う。

- (39) **今後はどのように変化するか？** 今は想像がつかないと思うが、これは、いってみれば食事のデリバリーが電話注文からウェブ注文に・ウェブ決済に移り変わったのと同じだ。例えば、初めて Uber Eats で注文・決済したときの「ものすごく簡単！」という驚きが、やがて消え去り、当たり前になっていく。仮想通貨 ATM も仮想通貨決済もそのような感覚で浸透していくであろう。さらに、長い目でみれば、イーサが世界最大の通貨になる日が来るかもしれない。世界最大の暗号通貨、ではなく、ドルや円なども含めた世界最大の通貨である。
- (40) **これから初めて Web 3 を体験してみたという人には、いくつかのおすすめの始め方がある。**ただ、リスクゼロの世界ではないので、**気をつけるべきところは気をつけつつやっていく。**Web 3 をするには、何をするにもトークンが必要になるので、自分のトークンを入れておく「ウォレット」と、法定通貨（円など）を暗号資産（イーサなど）に替える「暗号資産取引所の口座」を開設する。これで準備は完了である。ちなみに、2022年3月、メタマスクというメジャーなイーサリアムウォレットが Apple Pay 対応になった。これを使えば、より手軽に円をイーサに替えることができる。
- (41) **次に口座ができたら、最初の体験として一番簡単なのは何か？** NFT を買ってみることである。OpenSea などメジャーなマーケットプレイスに出品されている NFT を見て、気に入ったものがあったら買ってみる。ただし、NFT の偽物詐欺や、勝手に送りつけられてきた NFT を開くと、ウォレットの中身を全部抜き取られる「クリプトエコノミー型・送りつけ詐欺」も起こっているので注意が必要である。
- (42) **NFT 初心者の人向けに、ぜひ心にとめておくべき重要なポイントは何か？** ①**最初は「最悪、失っても大丈夫な額」で始める。**②**「好きだから買う」のがオススメで、とにかく楽しむ。**③**ウォレットは「あなた自身」、他の人に見られてもいいように意識する。**④**自分と同じ NFT プロフィール画像の人を SNS でフォローする。**⑤**購入した「NFT のコミュニティ」に参加する。**何事にもメリットとデメリットがあり、NFT も同じである。
- (43) **次に掲げる「注意すべきポイント」も心にとめつつ、楽しんでもらいたいのは？** ①**「NFT は儲かるから」という理由で始めない。**②**NFT アートは「短期での転売」を繰り返さない。**③**SNS で知らない人からのメッセージは安易に受け取らない。**④**「ウォレットの管理」や「NFT 購入の判断」は他人に任せない。**⑤**NFT はグローバルが基本で、「英語だから」と敬遠しない。**
NFT を買ってみたいところから、さらに踏み込むならば、DAO も体験してほしいところである。ただ、基本の言語は英語であるから、言語障壁もある。そこで、まずは興味のある DAO でメンバーたちがどんな会話を交わし、実際にどんな具合にプロジェクトが動いているのかを見学してみようことをすすめたい。